

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

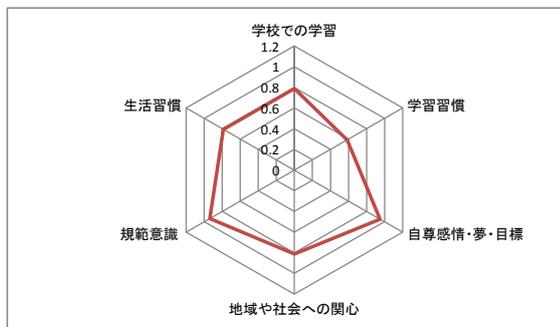
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。書く能力に課題があり、書く事を習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	日常生活で使われている慣用句の意味と使い方に関する問題は、正答率が全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成について考える問題は正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率をやや下回っていたが、半分近くの問題で無回答率が全国平均を上回っていた。読む能力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題については正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、内容の中心明確にして詳しく書く問題については正答率が全国平均より下回っていた。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っていたが、正答率が全国平均を上回っている問題が複数あった。基礎的・基本的な学習問題の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を考える問題については、正答率が100%であった。	
	努力が必要な問題	割合や、折れ線グラフから変化を読み取る問題については、正答率が全国平均より下回っていた。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、無回答率はかなり低くなっており、粘り強く取り組むことができるようになった。数量関係や図形についての問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する問題については、正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、無回答率が低く、記述問題に対しても苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	堆積作用において、水の働きを表す言葉を選ぶ問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析する問題については、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・普段(月曜日～金曜日)、1日あたり60分以上勉強している児童の割合は昨年度に比べて減少している。学校の宿題にはきちんと取り組んでいるが、自分で計画的に学習を行う週間は定着できていない。 ・学校のきまりを守っているという児童の割合はほぼ全国平均に達しており、規範意識は高い。 ・自分にはよいところがあると答えた児童の割合は減少しており、依然として自尊感情が低い傾向にある。 ・将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。 ・授業の中に、「話し合う活動」を効果的に取り入れるなどの授業改善に取り組む。また、基礎的・基本的な学習の定着や、個に応じた指導の充実のために、放課後の時間(週1～2回)を利用して、定期的な補充学習の時間を設ける。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果の概要や、課題や取組等を学校だより、学校HPで周知するとともに、学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について、児童及び保護者の方への啓発を行う。 ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、自学ノートや自宅での復習などに取り組ませる。
--